

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月14日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 0372200329 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 帰厚堂 | | |
| 事業所名 | グループホーム敬寿荘 | | |
| 所在地 | 〒028-3614 紫波郡矢巾町又兵衛新田6地割15番5 (電話) 019-697-9002 | | |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会 | | |
| 所在地 | 〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年10月7日 | 評価確定日 | 平成21年1月14日 |

【情報提供票より】(平成20年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|-----------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 14 年 3 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 15 人 |
| 職員数 | 16 人 | 常勤 9 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 | 12 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|-------|-------|
| 建物構造 | 木造 造り | | |
| | 2 階建ての | 1 階 ~ | 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|-------------|
| 家賃(平均月額) | 27,000~45,000 円 | その他の経費(月額) | 理美容・おむつ代等実費 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 780 円 | | |

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 15 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 12 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 4 名 | | |
| 要介護3 | 7 名 | 要介護4 | 3 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 84 歳 | 最低 | 72 歳 | 最高 | 98 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------|
| 協力医療機関名 | 南昌病院 |
|---------|------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昔ながらの商店が立ち並ぶ一角に位置するグループホーム敬寿荘は、改築された建物が利用者の住み慣れた居住空間に近い環境にあり、また近隣には顔なじみの個人商店がある等、利用者にとって安心した生活環境となっている。訪問当日には二つあるユニットのそれぞれの利用者が、居心地良く過ごしている様子が見受けられ、また職員も明るく、お互いに支え合いながら生活している。ホームでの医療面の対応に関しては、母体である医療法人南昌病院による様々な場面での支援がある。行事等を開催する際にも法人が運営する他施設の職員の応援を得ており、また地域住民からも協力を得るなど、利用者、職員、地域住民の間で協力体制が築かれている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 理念を共有するための工夫について、具体的にイメージできるようキーワードとなる言葉で簡潔なものに見直しを行った。また、利用者の意向等を把握するための方法として、センター方式を採用し、今年度より取り組みを開始している。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 全職員で自己評価に取り組むことにより、各項目の意義を理解している。また日常の業務に流されてしまうことなく何が問題かを認識する機会となり、具体的な改善に取り組むきっかけへとつながっている。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 2か月に1回の定期開催であり、会議の委員は地域包括支援センター、民生委員、自治会、利用者家族となっている。利用者の近況等について報告を行うほか、直近の会議では避難訓練の状況や事故報告等がなされている。また自治会代表の委員から地域に関する情報提供がある等、双方間での意見交換を行っている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 面会時や通院介助のためホーム訪問時、あるいは、家族に電話をかけた時等に意見を言いやすい状況を心がけている。苦情や不安の意見があった時には職員全員で話し合いを持ち、早急に対応するよう心懸けている。また事業所独自で家族にアンケート調査も実施しており、家族からの意見を積極的に得ようとする姿勢が感じられる。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| 重点項目④ | 天候や利用者の体調を見ながら近隣を散歩したり、毎日商店での買い物へ出かけたりしており、近隣の理容店はすっかり顔なじみの関係となって、利用者は安心して利用している。また近隣住民は、利用者が外を歩いている時は気にかけていたり、地震の際には心配して事業所に駆けつけており、事業所は地域の一員として捉えられていることがうかがえる。 |

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|--|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 昨年度は5つの理念を掲げそれぞれを文章化したが、文章が長すぎたことを反省し、今年度は簡潔にまた一目で理解できるよう「傾聴、喜びと安心、自分らしく」をキーワードとして3つにまとめ、地域の中で安心して自分らしく暮らし続けることを重点項目としている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念はリビングに掲示し、また朝の申し送り前には必ず職員全員で読誦している。「傾聴、喜びと安心、自分らしく」のキーワードは色づけし、リビングに掲示することにより常に理念を確認することができ、日々の実践に向けて取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会のお花見や文化祭、敬老会に参加している。数軒先の商店や理容店等の地元の人々との交流は日常的なものとなっており、回覧板が回ってきたり、物の貸し借りを気軽に行うことのできる関係を築いている。 | ○ | 事業所が面する通り沿いや地元商店との日常的に行われている交流は、ホームに対する親しみやすさへとつながっていると思われる。2年後の都市計画による引っ越しの予定などもあるが、今後も近隣との日々の交流は大事に継続していただきたい。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価については全職員で取り組むことにより各項目の意義を理解している。自己評価及び外部評価を行うことで日常の業務に流されてしまうことなく何が問題かを認識する機会となり、具体的な改善に取り組むきっかけへとつながっている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回の定期開催であり、会議の委員は地域包括支援センター、民生委員、自治会、利用者家族となっている。利用者の近況等について報告を行うほか、直近の会議では避難訓練の状況や事故報告等がなされている。また自治会代表の委員から地域に関する情報提供がある等、双方間での意見交換を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市町村担当者へ運営推進会議録を毎回直接届け、その際には利用者の近況等についての相談を行っている。このほか地域包括支援センターとは随時行き来をして、連携を深めている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | ホーム全般の報告としては広報誌により、また利用者一人ひとりの近況報告は各々の担当職員が記入して、隔月に利用者の家族へ報告している。このほか利用者の状態に変化があったり、急を要する際には随時、電話で連絡を取っている。預かり金については毎月収支記録を送付している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情担当者を決め、投書箱は各階に設置して対応できる体制となっている。また毎年家族にアンケートを送り、全員から回答を得ている。アンケート結果は取りまとめて運営推進会議に諮る等運営に反映させている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 同一法人内に病院や施設、その他介護事業所があり、法人内での人事異動がある。職員の異動時には利用者が十分な納得が得られるまで時間を要することが多いが、マイナスなイメージを与えないように留意しながら何度でも説明を行うなど、利用者へのダメージを抑えるための配慮している。 | ○ | 利用者もいなくなった職員を気にすることがあり、その際には「出世していいところへ行っただですよ」等、心配のないように伝えている。人材育成の観点や職員個々の状況などで異動は避けられないと思われるが、利用者の心情面や安定した職員体制を配慮して、頻回な異動は極力無いよう期待したい。 |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の経験やレベルに応じて、グループホーム協会の研修会等に参加するように計画及び実施をしている。また法人内で行われる研修会にも積極的に参加している。このほか新人職員には他のグループホームでの研修に参加する機会を設け、認知症ケアに対する取り組みへの理解が深められている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 矢巾町地域包括支援センターが毎月開催している介護サービス事業者会議に参加し、情報交換等を行っている。また他のグループホームと交換研修を実施して他ホームの理念や特徴を学び、ホーム内の勉強会でその内容を報告して、職員全員がサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|--|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 在宅等での担当の介護支援専門員からの情報を参考とし、利用者及び家族には施設の特徴や目的について十分な説明を行っている。またホームの見学をしてもらうなどして場の雰囲気に馴染めるよう工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者一人ひとりに合った役割を、負担に感じない範囲で担えるよう工夫して取り組んでいる。職員は利用者から調理方法や帯の結び方等を教わるほか、利用者は職員に対して心配してくれたり困っていると手助けしてくれたり支え合う関係が築かれている。また職員は利用者の話す独特の言葉や表現も大事にしたいと考えている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常的に利用者本人の発言や行動を記録や伝達により共有することとしており、職員間で検討を行いその人の思い、意向の把握に努めている。また今年度はセンター方式のアセスメントを取り入れ、本人の思いを深めることができた。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | アセスメント等利用者の状況把握に職員全員が取り組み、利用者や家族の希望を伺い、カンファレンスの結果をもとに計画担当職員が介護計画を作成している。センター方式のアセスメントをプランに活かしていく流れの中では、難しさも感じている。 | ○ | センター方式で得ていく情報や気付きから利用者本人の思いを捉え、プラン作りに活かしていく取り組みを徐々に進めていくことを期待する。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 基本的には3か月に1回、職員の気づきや意見を取り入れて見直しをしているが、状態に変化がある場合にはその都度見直している。家族との話し合い等の中から、健康面や日々の安全などについて意見を得ながら、また認定審査会の意見等を取り入れた計画を作成し、家族の訪問時に計画の説明と同意を得ている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|----|---|---|------|--|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者の家の墓所の場所を管理者が把握しており、彼岸等には本人からの要望がなくてもお墓参りのために外出の支援をしている。日常的には利用者一人ひとりの思いや希望に応じ買い物やドライブ等外出の支援を柔軟に行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人及び家族の希望のかかりつけ医となっており、受診時にはホームの職員が付き添っている。状態に変化等があった場合には早目にかかりつけ医に報告し指示を受けている。また、かかりつけ医がホームに訪問して診察することもある。精神科受診が必要な時にはかかりつけ医の紹介状により受診に結び付けている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合には本人や家族の要望をその都度伺いながら対応している。訪問看護などとの医療連携を十分に図ることにより、本人及び家族の希望のもとに、一時入院となった利用者がホームに帰ってきたケースもあった。 | ○ | 医療機関との連携を図るほかに、マニュアル作成を予定しているなど重度化及び終末期に対する取り組みを始めている。ホームでの終末期の在り方について、本人及び家族の希望の確認方法等、職員全員の共通の認識のもと対応していくことを期待する。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 排泄や入浴介助時には利用者の立場に立ち、羞恥心に配慮した声かけ等の対応をしている。個人情報に関しては同意を得て対応している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日課など一日の暮らし方は利用者それぞれで、散歩などは日々要望に応えるほか、月1回程度外泊する利用者もある。調査訪問日当日に、夕刊を配達員から受け取った利用者は非常に明るい表情をしており、それを本人の日課と楽しみとして職員も見守っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 料理の準備等は利用者と一緒にしている。ホーム内の食事だけではなく時々、ラーメン屋に食べに出かけ、外出困難な利用者には出前を取るなど食事を楽しんでいる。また利用者がゆったりと過ごすことができるようにテーブルの配置を変えるなどの工夫をしている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 皮膚の状態などを加味して基本的には入浴は隔日として、本人の希望の時間帯となっているが希望者は毎日入浴することができる。体調が悪く入浴ができない場合には清拭を行っている。在宅ではほとんど入浴をしなかった利用者が入浴の日だと話をするようになるなど、入浴を楽しめるような支援をしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 食事の準備や後片付け、また洗濯物を干したりたたんだりするなど、一人ひとりが日常生活での役割を果たしている。利用者の一人は毎日夕刊を配達してくれる方との会話を楽しみにし夕刊を受け取っている。それぞれの役割は互いに邪魔することもなく、気遣い合いながら行われている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 日常的には近所のお店まで買い物に出かけ近隣住民と交流している。またおやつの後には散歩や外気浴のため建物の外に出ている。また15分程度で周囲をドライブすることもある。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 以前利用していた南側玄関は車の往来が激しくなり、また近くに水路もあることから、利用者の安全を考慮して西側から出入りすることとした。この出入口は日中鍵をかけておらず、見守りの体制を整えるために鈴とセンサーを設置するほか、利用者が外へ出かける際には、職員や理解ある地域住民らがそっと見守っている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 火災を想定した避難訓練を近隣住民の参加を得ながら、年2回実施している。火災以外の自然災害(地震等)への対応マニュアルの必要性を痛感しており、その作成を検討中である。 | ○ | 自然災害時の対策については運営推進会議ですでに検討中であり、段階的な取り組みを計画している。あらゆる災害に備えた対策等を講じるとともに、消防や警察等とも協力しながら災害対策がより充実することを期待する。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 法人の栄養士が栄養面を考慮して作成した献立にもとづいて調理している。食事量は主食・副食別にチェックして全体量を把握し、食事量にむらがある場合には状態に応じて刻み食などで調整している。水分摂取は外出や入浴後には特に多く摂るよう勧めている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間の場である食堂兼居間や玄関先には花や手作りの壁掛け等が飾ってあるなど、家庭的な雰囲気があがる。またバルコニーのプランターには花を植え、季節感を味わうことができるなど居心地良く過ごせるように心がけている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 部屋毎に広さは違うがそれぞれの居室には本人が使い慣れた家具や好みの衣類、仏壇が置いてある。家族の写真なども飾ってあり利用者にとって居心地良く過ごせるよう工夫されている。 | | |